館内登録語り部講話タイトル一覧

※語り部の震災当時の居住市町村ごとに50音順で並べています　※2026年4月1日更新

No.	市町村	タイトル	ジャンル	あらすじ
1	いわき市	あの日から13年間の久之浜町 そしてこれからは… （いわき市）	地震・津波・ 原子力災害・防災	震災当日は、いわき市久之浜の自宅にいました。地震、津波、火災、原発災害について13年間の映像を見ながら、現在の福島からの課題を話しています。また、今後の災害に備えた防災についても話しています。
2		震災当日の行動と教訓及び復興事業について （いわき市）	地震・津波・ 原子力災害・防災	震災当日の行動教訓および防災について、体験談と災害に対する備えについて語っています。また、避難所生活、みなし仮設住宅での生活の問題や、自分の取り組んできたこと等についてもお話します。
3		自分の命を守る （いわき市）	津波・防災	海の底を見てからの10数分間。死に直面した体験から、自分の命を守るために、その時その場所なら貴方は、どう行動しますか？瞬時の判断が必要です。今、貴方がすべき事は、何！？ですか？
4	おおくままち 大熊町	「当たり前」はない （大熊町）	地震・津波・原子力災害・ 原発避難・防災	大熊町に住んでいた私は、震災前まで過ごしてきた、いつもの毎日が当たり前ではなく、どれだけ尊く有難いことだったかを思い知らされた経験を話させていただいています。
5		東日本大震災から考える防災と社会課題 （大熊町）	地震・津波・ 原子力災害・防災	震災当時は、大熊町沿岸の集落で生活していました。津波で家族3人を失い、原発事故でその3人を探すことが出来ませんでした。その経験から、防災と社会課題についてお話ししています。
6		ふるさとで暮らす （大熊町）	原発避難	震災当時中学2年生だった私は、原発事故がきっかけで10年間大熊町を離れることになりました。子どもから大人になる中で、故郷に対して何を感じ、考えてきたのかをお話します。
7		震災・原発事故から復興へ （大熊町）	原子力災害・原発避難	震災当日は、神奈川県に単身赴任中でした。震災前後の大熊町や会津若松市での避難の様子、処理水や燃料デブリ、中間貯蔵施設など大熊町が抱える課題など、大熊町の現状と復興についてお話をしています。
8		震災後の2日間とその後 （大熊町）	原発避難	震災当時は大熊町に住んでいました。原発事故と地震を経験しましたが、7回の避難生活の中、今もなお避難中ですが、自宅に帰れると思っていた3月12日と帰れないことが解ったその後を話します。
9		震災時の体験と伝えたいこと （大熊町）	地震・津波・原子力災害・ 原発避難・防災	震災当時は大熊町立熊町児童館に勤務しておりました。原発事故により全町避難となり、田村市、会津若松市での避難生活経験とその後の大熊町の状況を話しています。
10	そうまし 相馬市	私の震災体験とそれから「仙台港での大津波、多賀城の職場、相馬の実家、そして大切な家族」（相馬市）	地震・津波・原子力災害・ 原発避難・防災・伝統芸能	地震発生の時、宮城県仙台市で会議中でした。多賀城市の職場が心配で同僚と車で戻る途中、大津波に巻き込まれ九死に一生を得ました。その後家族と連絡がとれず避難所を転々としたことをお話ししています。
11		『残照』～震災の記憶～ （相馬市）	地震・津波・原子力災害	震災当時、第一原発のある大熊町で仕事をしており、その後大熊町の大部分は帰還困難区域になりました。原発事故と津波について、私の経験や伝聞したことをお話いたします。
12	とうきょうと 東京都	福島第一原発事故における病院避難について （東京都※本人の被災体験ではなく聞き取りした内容です）	原子力災害・原発避難	震災当時は東京在住で62歳でした。震災後に楢葉町に移住し、原発事故の影響で病院も避難を余儀なくされ、多くの人が亡くなったことを知り、語り伝えています。
13	とみおかまち 富岡町	東日本大震災原発事故により避難した体験を ダンボールアートを通して語り伝える（富岡町）	原発避難	震災前は富岡町に住んでいました。避難所から生まれたダンボールアートを使用して被災の経験を語り伝えています。
14		長い避難生活を支えた励ましの数々 （富岡町）	原発避難	震災の翌日、お産間近の次女と高齢の両親を連れて富岡町から避難しました。7年間の長野での避難生活の中、父母を見送りました。一番辛い時、友人や出会った方たちに励ましていただき今があります。
15		当時11歳にとっての東日本大震災 （富岡町）	地震・原発避難・防災	富岡町立富岡第二小学校の5年生で体育館での地震と原発事故による避難を経験しました。11歳にとって震災がどう映っていたのか、どう受け止めてきたのかについて語ります。
16		東日本大震災 娘との日々 （富岡町）	地震・原発避難	震災の日は、生まれたばかりの孫に逢えた喜びを味わったのち、富岡町の自宅にて経験したことのない地震にあい、家族と避難生活を送りました。娘たちに支えられながら寂しさを乗り越えられたことを伝えています。
17		震災発生から全町避難を振り返って （富岡町）	地震・津波・原子力災害・ 原発避難	震災当時は富岡町で仕事をしていました。避難指示が出たので千葉に1年避難しました。その後いわきで自治会を立ち上げたり日赤の活動をしたり、語り人（かたりべ）活動に力を入れていることをお話しています。
18		震災・避難・現在の歩み （富岡町）	地震・津波・原子力災害・ 原発避難・防災	震災時は、富岡第二小学校の6年生で福島での原子力災害で被災しました。避難所でも長い時間生活していました。子どもの時の体験と原子力災害について、福島の課題を含めて語ります。
19		あの日の震災から学んだこと （富岡町）	地震・津波・原子力災害・ 原発避難	震災当時富岡町に住んでいて、家は津波により流出し、原発事故による避難を経験しています。二人の息子を持つ母親として、避難から現在までの思いをお話ししています。

※語り部の震災当時の居住市町村ごとに50音順で並べています

No.	市町村	タイトル	ジャンル	あらすじ
20	なみえまち 浪江町	紙芝居で伝えたいこと （浪江町）	地震・津波・原発避難	東日本大震災・大津波・原発事故体験者として、薄れていく記憶を記録として紙芝居に残し伝えています。原発事故により全町民避難になった浪江町の昔と今の暮らしについて話します。
21		東日本大震災と避難生活の実態 （浪江町）	原発避難	震災当時は浪江町に住んでおり、原発事故で県外に避難しました。現在も家族と避難し、医療機関に通っている現状や、避難先の皆さまに感謝していること等についてお話をしています。
22		震災紙芝居 （浪江町）	地震・津波・原子力災害・ 原発避難・防災	紙芝居を通して震災や原発事故のお話をしています。例として、請戸小学校、消防団、取り残された動物、住民の全町避難等、当時体験した方々の様子をお伝えしています。
23		置き去りにされた動物 （浪江町）	原子力災害・原発避難	震災当時は双葉町の小学校に勤めていました。地震・津波・原子力災害へと拡大していく複合災害の実相を話しています。震災当日から現在までの住民の思いや地域の実態を伝えられればと思っています。
24		浪江に生きる記憶 ― あの日から始まった 『ふるさと』との対話（浪江町）	原発避難	福島県浪江町で育ち、震災当時は中学一年生でした。原発事故により故郷を離れた体験と、避難生活の中で感じた喪失や葛藤、今も続く浪江町への想いについてお話しします。
25		役場職員　震災直後の7日間 （浪江町）	地震・津波・原子力災害・ 原発避難	たったの5日の間で起きた、地震⇒津波⇒原子炉建屋水素爆発という未曽有の災害の中で、原発立地町ではない隣接自治体（浪江町）の災害対策本部で何が起きていたのか。本部長の町長と行動を共にした元役場職員が切迫した状況を語ります。
26	ふたばまち 双葉町	双葉の子どもたち （双葉町）	地震・津波・ 原子力災害・防災	震災当時は、相双地区の小学校の教員でした。地震や津波から命を守ることについて話します。また、避難した後も一人一人の子どもの心を守るため具体的に行動しなければならないということについて伝えます。
27		伝統文化存続の危機と伝承 （双葉町）	伝統芸能	震災および原発事故後、故郷が帰還困難区域となり避難生活が長引く中、存続の危機にあった双葉町の伝統文化である盆踊りや和太鼓を、どのようにして残そうとしたのかというお話です。
28		震災と私　～その時、私の周りでおきたこと～ （双葉町）	地震・原子力災害・ 原発避難・防災	震災当時、双葉町にある介護施設に勤務していました。水素爆発後に避難弱者と言われる高齢者と共に過酷な避難を体験したことや、その後妊娠出産をした体験等を踏まえて命を守る行動について伝えていきます。
29		震災・原発事故を語る （双葉町）	地震・津波・原子力災害・ 原発避難・防災	震災当時は双葉町役場に勤めていました。震災・原発事故後から現在までの双葉町の状況や避難の状況を時系列で説明します。双葉町の今後の復興に向けての課題等についても話しています。
30		変わりゆくふるさと　それでも前を向いて （双葉町）	原子力災害・原発避難	原発事故の影響で何も分からないまま双葉町から避難しました。放射線について正しい知識を得ることの大切さを伝えています。本当の意味での復興がかなうのか目を背けることなく、向き合っていきたいと思っています。
31		生きのびるために （双葉町）	地震・津波・原子力災害・ 原発避難	当時は伝承館近くの双葉町中野地区に住んでおり、津波の被害を受けました。原発事故による東京への避難、地区に戻ってからの行政区長や神社再建の活動、ボランティア等について話しています。
32	みなみそうまし 南相馬市	紙芝居『菜の花物語』 （南相馬市）	地震・津波	震災当時は南相馬市小高区に住んでいました。地区にある浦尻貝塚で仕事をしているときに被災し、津波を目の当たりにしました。講話では「菜の花物語」という紙芝居を披露しています。
33		震災経験とその後の活動 （南相馬市）	地震・津波・ 原子力災害・防災	震災時は双葉町の勤務先で、地震と津波を体験。南相馬市原町区の自宅では原発事故で被災しました。原発事故は「二度と起こさない」の思いを込めて「までい」なお話をしています。
34		東日本大震災ーあの日から15年が過ぎて （南相馬市）	原発避難	普通の日常を突然襲った地震当日のこと、その後に起きた原発事故による避難生活、そしてあれから十数年が過ぎてなお、今に続く日々の暮らしの中で思い続けていることをお伝えいたします。
35		あの日を　忘れない ～私の震災の記憶と教訓～ 「あの時」と思うこと（南相馬市）	地震・津波・防災	地震発生時、浪江町請戸で勤務中でした。その直後、当たり前のとるべき行動をとれなかった、とらなかった私です。持ち続けている【あの時】という思い、だから伝えたい【命を守る】こと（備え）について、お話させていただいています。
36		防災意識を高めよう。みんなと、自分を！ （南相馬市）	地震・津波・防災	震災の津波で従妹（いとこ）ら親族10名が犠牲となり、捜索することもできないまま、原発事故に伴い避難することになりました。近年災害が多く、身を守るためには自分と周辺の方々の防災意識の向上が大切です。
37		原発から25キロに住む1人として （南相馬市）	原子力災害・原発避難	第一原発から20㎞から30㎞は緊急時避難準備区域になり、一度も避難をしろとは言われませんでしたが、原発の爆発後、子供を先に逃がし、自身も避難をします。放射線に翻弄された家族の話です。
38		原発事故の後で学校・子どもたちに起きたこと （南相馬市）	地震・原子力災害・ 原発避難	震災当時は福島県立相馬農業高校の養護教諭をしていました。地震と津波、原発事故という誰も経験していない複合災害が学校にもたらしたものは何かを養護教諭の視点から話しています。